

学校の猛暑への対策について

最近では猛暑が当たり前の状況であり、学校は対策に苦慮しています。そこで、学校のプールの状況、体育館の空調について質問します。

学校のプールについて質問します。

今年の予算特別委員会の審査でプール維持管理業務委託料について、プールの使用日数や教員の負担軽減を考えると、廃止も含めて水泳の授業の在り方を検討しませんか、と質問しました。答弁は、コスト面等を協議しながら考えていきたい、とのことであったと思います。

7月30日の中国新聞に「猛暑でもOK。学校プール管理費削減。教員負担減。」の見出しで、小学校の水泳の授業を公共・民間施設の屋内プールで実施する福山市の事例が紹介されていました。バス代、インストラクターへの謝金など本年度実施する31校の費用は約8540万円。一方31校で学校のプールを使う場合の水道代、長寿命化の修繕費などは合計で1億2700万円と試算しているとのことです。

今年度のプールの利用状況、維持管理費はどのような状況でしょうか。民間施設の利用を進めるお考えはないでしょうか。

次に学校体育館の空調について質問します。

文部科学省政務官が解説する「全国の学校体育館等への空調整備を加速します！」という動画があります。内容は、①避難所としての機能強化を図る観点から公立小中学校の体育館への空調設備の整備は喫緊の課題であること。②令和15年度までの臨時特例交付金を新設し整備のペースを2倍に加速する。国庫補助率は1/2 地方負担分全額に地方債の充当が可能であり、後年度の元利償還金についてはその50%に地方交付税措置が講じられること。整備した体育館空調の光熱費については令和7年度から地方交付税措置がなされること。です。

避難所に指定されている学校体育館は早急に対応すべきと考えますが、現在の状況をお聞かせください。整備にあたっては、ランニングコスト、災害時の対応力、などを考慮してガス空調を導入している事例もあります。今後の対応をお聞かせください。

観光政策について質問します。

プレスリリースで令和6年(令和6年1月～12月)の入込観光客統計結果が発表されました。調査結果概要で、入込観光客数は、798,401人(前年比120.4%)、観光消費額は、約44億6千万円(前年比119.8%)、外国人観光客数についても、(前年比162.6%)で過去最高を記録したということです。町並み保存地区を歩くと、台湾、フランスなど海外からの観光客が増えていることを感じます。また、大久野島も忠海駅、忠海港で多くの海外からの観光客をみかけます。

今回の調査で注目したいのが観光消費額です。観光客数を追い求めるのではなく、「稼ぐ観光」ということが言われるようになりました。竹原市では以前から観光消費額を増加させ、それを如何に市内に波及させて、経済活性化に活かすかが課題となっています。今後の観光政策をどのように取り組まれようとしているのか、お聞かせください。

関係人口の活用について質問します。

竹原市は令和2年8月21日に「たけはらファンクラブ」を設立し、ホームページでは

私たちは、みなさんと、「たけはらファンクラブ」で繋がって、楽しいことがしたい。「たけはらファンクラブ」で、みなさんの「楽しいこと」のきっかけづくりもしたい。そんな想いから、「たけはらファンクラブ」を立ち上げました。人が好き、自然が豊かなところが好き。あのアニメや番組の聖地。少しでも、竹原の事が好きなみなさん。「たけはらのファンになってください。」

と呼びかけをし、SNSでも情報発信を行っています。また、竹原にゆかりのあるたけはらファンの方々も紹介されています。しかし、その活動は、メールマガジンを送ること、関係人口創出イベントを開催することが目立ちます。

先日「ALL竹原きらっと未来創造会議キックオフミーティング」が開催され、市内中学生、高校生、企業、団体が多数参加されたようです。参加者の中には、以前竹原発のスタートアップに関わり、今回京都から参加された方がおられます。忠海集学校の立ち上げにかかわり、現在は関東で他の企業にお勤めの方が夏休みを竹原で過ごされました。市内のホテルに勤務し、市内のお祭りに積極的に参加してきた若者が、今回転勤で九州に転居しましたが、「竹原が好きだから、また帰ってきます」と言ってくれました。

神石高原町では、地域おこし協力隊とデジタルコミュニティ（DAO）を組み合わせて地域活性化する取り組みを始めました。積極的にDXを推進する竹原市も参考にできると思います。

竹原が好きだと言ってくれる方々、たけはらファンになっていただいた方々に、竹原の行事への参加を呼び掛けること、竹原の課題解決にもっと関わっていただく場を設けることが必要と考えます。お考えをお聞かせください。